

シリーズ「人権レクリエーション②」

～バナナおに～

いくら体験を繰り返しても「振り返り」をおろそかにすると体験しただけになってしまいます。

「体験あって学び無し」と言われますが、体験を振り返り、意味づけたり、価値づけたりすることで「体験」が「経験」になります。その経験は、「経験則」や「経験知」として意味あるものとなります。

そのためには、体験を通して感じたことや気づいたこと、分かったことなどを自分の言葉にして表現する時間、つまり「振り返りの時間」を保障することが大切です。また、自分の「振り返り」を他者と交流することで、多様なものの見方、考え方ができるようになり、**人権感覚の育成**につながります。

～バナナおに～

所要時間 10分
対象：小学3年生以上

◎目的

このゲームは楽しみながら、「わたしも大切、あなたも大切」と互いに尊重し合えるよりよい人間関係を育てる上で有効なレクリエーション(ゲーム)です。

◎進め方

①おにを決めます。

(逃げる人:おに=5:1ぐらいがベスト)

②おににタッチされたら両手を上げ、バナナのポーズで、その場に固まります。

③バナナになった人は、動くことができません。

④逃がっている人が、2人で協力してバナナの皮をむくようにバナナになった人の両手を開くことで、バナナになった人を助けることができます。

⑤皮を同時に2枚むいてもらえたら、バナナになった人はまた逃げられます。

⑥ただし、同じバナナの皮は、1人1枚しかむけません。(1人助けるためには、2人の協力が不可欠ということです。)

◎ポイント

「2人で協力して助けた時、どんな気持ちだったのか」「助けられた時、どんな気持ちだったのか」「助けられずに逃げていく人をどんな気持ちで見ているのか」などを振り返り、見て見ぬふりをしないことや助けようと行動を起こすことの大切さに気づかせます。
※次回は、「カムオン」について、また、人権レクリエーション(体験)を行う上でのポイントをお知らせします。

バナナの皮



バナナのポーズ

「人権コラム」子どもの人権①

「子どもの育ちを支えるために～安心した居場所づくりのために私たちにできること～」
甘木山学園支援部長 坂口 明夫さん

9月28日、京築地区社会教育関係団体リーダー人権教育研修会が、当教育事務所で開催されました。坂口明夫さんの講演の一部を紹介します。

<貧困とは>

絶対的貧困… 戦争や災害によってご飯が食べられず、生きていくことさえままならない状態。
相対的貧困… その地域や社会でいわゆる「ふつう」の生活ができない状態。

1. 「相対的貧困」について

私たちは子どものサポートをしています。縁が始まるという意味で「支援」は「始縁」だと思えます。

相対的貧困について考える時、「ふつう」の生活について考えます。とはいっても東京、大阪、福岡では「ふつう」の状況が違います。何ををもって「ふつう」と考えるか、そこに人権の視点があると思います。

貧困問題を語るとき、相対的貧困について考えますが、子どもの相対的貧困の割合は6人に1人だと言われます。日本の平均所得は、2014年では541.9万円でした。その内平均所得以下の方が61.2%います。平均ということ50%と思われがちですが、平均所得以下の方が6割となっています。このような数字のマジックにとらわれないようにすることが大切です。

子どもは親の収入が低いと十分な教育が受けられず、進学や就職で不利になり、さらにその子どもが親になるとき負の連鎖が起きます。奨学金についても「貸与」が多く、制服など入学前に必要なお金を保護者が立て替えることになれば、本当に困っている家庭は入学することさえ難しくなります。

2. 「困った」子どもこそ、「困っている」子ども

子どもを見るとき、「この子がいるから困った。地域としても困った」と言っているかもしれませんが、しかし、その子どもは困っているからこそ、「暴力をする」「言うことを聞かない」「反社会的行動をしている」のかもしれません。また親に関しても「虐待せざるを得ない親だ」と考えてみます。

そうすると「困った子ども」ではなく「困っている子ども」、「困った親」ではなく、「困っている親」というまなざしで見ることが出来ます。



あいのて 14号
平成29年1月19日

note....



発行 京築教育事務所人権・国際教育室

はじめに

今号のテーマは、**人権教育と学力向上**です。

「すべての児童生徒に社会参加と自己実現を可能にする『生きる力』を育むには、(中略)とりわけ教育上配慮が必要な状況にある児童生徒については、その状況を的確にとらえて具体的に取組を進めていくとともに、学力の向上と人権感覚の育成を併せて追及することが効果的である」と福岡県人権教育推進プランに示しています。その取組の具体例を次の3点から紹介します。

①人権教育と学力向上の関係は？

「自分の力が発揮でき、安心して学べる環境」こそ学力向上の基盤です。学力が向上した学校の取組をみると人権教育の視点が踏まえていることがわかりました。「人権教育のツボ」でその内容について解説します。

②人権教育の視点に立った小学校国語科の授業実践例

小学校の国語科の授業を通して、子どもたちの人権感覚を育成している管内の実践例を紹介します。

③人権レクリエーション

人権感覚を育成するためには、子どもが自分で「感じ、考え、行動する」主体的・実践的な学習が必要です。

その指導方法として、「協力」「参加」「体験」を重視すると効果的です。レクリエーションは人権感覚を育成する効果的な活動です。その実践方法を紹介します。

子どもの学びを保障するために、そして、子ども一人一人が描く未来に自信をもって進めるようにするために、本リーフレットを活用ください。


人権教育の「ツボ」

人権教育と学力向上

人権教育の視点を踏まえた教育活動は、児童生徒の学力向上に大きな影響をあたえます。

今回は、全国学力・学習状況調査及び福岡県学力調査において、成果をあげた学校の取組から見える共通点と人権教育との関係を整理します。


成果を上げた学校の取組に学ぶ！

授業づくり 一人残らず満足の授業にこだわる 

「できた」「わかった」を子どもたちに実感させることは、人権感覚の育成に必要な「**成就感**」「**達成感**」を味わわせることにつながります。


子どもに接する4原則～教師の姿勢～

①見下さない②見捨てない③見落とさない④見逃さない

学力基盤づくり クセになるまで鍛える 

学習規律の徹底は、子どもたちが互いの人権を尊重し、**安心して学べる学習環境づくり**につながります。

「**書く**」「**話す**」機会を徹底保障することは、子どもたちの**コミュニケーション力**や**想像力・共感力**(人権感覚の諸能力)を育成することにつながります。

家庭学習 すべての子どもに自学力を保障 

自学に取り組ませることは、**自己選択・自己決定の機会**を与え、「**感じ、考え、行動する**」主体的な学びの基盤づくりにつながります。

自学ノートなど子どもたちが**やり遂げたこと**に価値付けすることは、**自尊心の向上**につながります。

教職員の意識向上 

みんなが考え、みんなで行き届く

教職員の情報が共有されることが、教職員の**人権尊重**となり、子どもたちの**人権の尊重**にもつながります。**人権が尊重された学校こそ、学力の向上**につながります。

平成28年度学力向上コーディネーター研修 京築教育事務所にて資料「京築における学力・学習状況調査結果等の課題と今後の改善策」より

人権教育の視点に立った授業づくり実践例

～小学校 第2学年国語科 説明的文章「たんぼぼのちえ」の実践より～

国語科の目標を達成する中で、**人権感覚の育成**を図る授業実践例を紹介します。

小学校国語科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

<展開例>

導 入	1 挿絵を提示して、4つのたんぼぼの様子との違いを確かめて、めあてを設定する。 「 どんなちがいがあがあるのかな 」 「 今までみたいに、「時」「様子」「わけ」に気を付けたら、ちえが見つかりそうだな。 」
	【めあて】「 とき 」「 ようす 」「 わけ 」に気をつけて5つ目のたんぼぼのちえを読み取ろう。
展 開	2 たんぼぼの様子を読み取る。 「 「時・様子・わけ」に気をつけて読めばいいんだな。 」 「 「時」を表す言葉は〇〇だから～。 」 「 5つ目のたんぼぼのちえは、〇〇だな。 」
	3 たんぼぼのちえを説明する。 「 5つ目のたんぼぼのちえは、よく晴れて、風がある日にらっかさんをいっぱいひろけることです。なぜかというところからです。 」 「 〇〇さんの考えと同じだ。 」 「 〇〇さんは、きっと～と考えたのかな。 」
終 末	4 本時の学習のまとめをする。 【まとめ】 ・晴れて風のある日はわた毛のらっかさんをいっぱいひらくちえ ・しめり気の多い日や雨ふりの日はわた毛のらっかさんをすぼませるちえ わたしは「 ふわふわたんぼぼ 」という名前にします。わけは、晴れた日にたくさんわた毛をとばすからです。

本実践における人権教育の視点

導入段階

【本実践では】

・前時と本時のたんぼぼの違いを挿絵を提示し比較させることで、課題を明確にし、学習意欲を喚起しています。
・「学習の足跡」を使って、前時までの学び方を振り返らせることで、全員が積極的に学習に参加できるようにしています。

●学習を振り返り、めあてをつかむ

主体的に学ぶために、**学習に参加している実感**をもたせます。

展開段階

【本実践では】

・「時」「様子」「わけ」に気をつけて、色分けしたサイドラインを引かせることで、自力解決の手がかりとしています。

●自分の考えをつくる

自己決定・選択することで実践行動ができる力を育てます。

【本実践では】

・読み取ったことを動作化しながら説明させたり、聞き合ったりさせることで、読みの正確さを吟味しています。

●考えを交流する

人権感覚を養います。

- 人間関係を調整する能力
- 想像力や共感力
- コミュニケーション能力 等

技能的側面

終末段階

●めあてと整合性のあるまとめにする

「できた」「わかった」と実感することで**成就感**や**達成感**を味わわせます。

【本実践では】

・5つ目のたんぼぼのちえが分かるように名前をつけさせることで、たんぼぼのちえが実感できるようにしています。

価値的・態度的側面